

男子大学生のパーソナルケア製品の使用実態

1920150090 北澤 陽輔

指導教員 吉永 淳

【背景・目的】化粧品やシャンプー、ハンドソープなど、人の肌を清潔に保つこと、身だしなみを整えること、美化することなどのために皮膚に直接塗布するものをパーソナルケア製品（PCP）という。PCP のなかには、長期的に使用すると人体に悪影響を及ぼす可能性のある物質が含まれていることが懸念されるようになった。例として、防腐剤として添加されているパラオキシ安息香酸エステル（パラベン）やトリクロサン、紫外線吸収剤のベンゾフェノン等が挙げられる。これらの物質は、今後リスク評価の対象になる可能性がある。リスク評価の結果、耐容一日摂取量（TDI）が決定されると、それに基づいて、こうした物質の PCP 中含有上限値が決定される。この上限値の決定の際に、日常的な PCP の使用実態に関する情報が必須になってくる。しかし現在、日常的な PCP の使用実態のデータは存在しない。そこで、PCP の使用実態を明らかにすることを目的に、本研究では男子学生を対象に調査を行なった。

【方法】 2019 年 5 月から 8 月までの 4 ヶ月間、男子学生 42 名を調査対象とした。対象者には年齢、居住地等の属性のほか、日常的に使用している PCP 製品を、メイク・スキンケア・ボディケア・バス用品・衛生用品・その他に分類してリストアップしてもらい、それぞれ 1 週間に使用した回数・量を調査票に記入してもらった。小型電子天秤を貸し出して、調査開始時と終了時の製品重量を測定してもらい、その差を使用量とした。

【結果・考察】 42 名の対象者の平均年齢は 20.8 歳であった。平均的には 1 週間に、5.1 品目の PCP を、合計 45.6 回、135.1g 使用していた（表 1）。最も使用量が多かったのはシャンプー等のバス用品で、PCP 総使用量の約 80%弱を占めていた。一方、メイク、ボディケア製品を使用している対象者はいなかった。

今回の結果を、以前に成人女性 122 名を対象に、同様の方法で調査した PCP の使用実態調査データと比較すると、男子学生は成人女性に比べ 1 週間の総 PCP 使用量・回数・品数とも有意に少なかった。このこと

表 1 男子学生が 1 週間に使用した PCP の品目数、使用回数、使用重

製品分類	品目数（数/週）	使用回数（回/週）	使用量（g/週）
メイク	0	0	0
スキンケア	0.5±0.7	4.2±6.4	6.6±12.5
ボディケア	0	0	0
バス用品	3.1±0.7	24.3±8.8	102.3±59.2
衛生用品	1.2±0.5	16.1±9.1	25.5±33.5
その他	0.2±0.6	0.9±2.4	0.5±1.5
合計	5.1±1.5	45.6±16.3	135.1±74.2

※n=42 ※Mean±SD

は、男子学生が成人女性に比べ、身だしなみや美化に対する意識が低いためであると考えられる。今後は、調査対象数を増やすほか、男子学生だけではなく成人男性全般に調査対象を広げ、日本人男性として、より代表性を高める必要がある。